# 落とした一銭銅貨

新美南吉

青空文庫

雀が一銭銅貨をひろいました。

雀はうれしくてうれしくてたまりません。

ほかの雀をみると、

「ぼくおかねをもってるよ。」

といって、くわえていた一銭銅貨を砂の上においてみせてやりました。

さて、日ぐれになりました。すこしくらくなってきました。

「や、遊びすぎちゃった。これはたいへんだ。」

と雀は、一銭銅貨をくわえて、おおいそぎで水車小屋の方へとんでいきました。この雀は水車小屋ののきばにすんでいたのでありました。

まだ水車小屋につかないまえ、はたけの上をとんでいたとき、あまりあわてたので、雀は銅貨を落としてしまいました。

「や、これはしまった。」

けれどあたりはもう暗くて、雀の目はよくみることができなくなっていたので、

「あしたの朝さがしにこよう。」

といって、そのまま水車小屋の巣にかえりました。

その夜はたいへん寒かったので、雀はかぜをひいてしまいました。

それもそのはず、雪がどっさりふったのでありました。

雀はかぜがなかなかおらないので、まいにち藁の中にくるまって、落とした一銭銅貨のことを思っていました。

やがて雀はよくなりました。そこで一銭銅貨をさがしにいきました。

まだ雪ははたけの上につもっていました。

「わたしの、わたしの一銭銅貨、この下にいるのかい。」

と、雀は雪の上からききました。

すると雪の下から、

「いえいえ、ここにはありません。」

とだれかがこたえました。

雀はまたべつのところへいって、

「わたしの、わたしの一銭銅貨、この下にいるのかい。」

とききました。

するとまた雪の下から、

「いえいえ、ここにはありません。」

とこたえました。

雀はあちらこちらとたずねてあるきました。

するととうとう、

「はいはい、ここにありますよ。雪がとけたらおいでなさい。」

とこたえました。

雀(すずめ)は雪のとけた日にまたはたけにやっていきました。銅貨(どうか)はちゃんとありました。

みるとはたけにはいっぱいふきのとうがでていました。銅貨(どうか)のあるところを雀(すずめ)におしえたのはこのふきのとうだったのでしょう。

# 青空文庫情報

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
　　1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：もりみつじゅんじ
2002年12月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 落とした一銭銅貨

新美南吉

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/